

2018 年合格目標 司法書士講座

憲法・刑法の攻略法

～パーフェクト講座 憲法・刑法～

TAC/Wセミナー 専任講師
渋谷校 姫野 寛之

TAC

1 セミナーの趣旨

本セミナーは、憲法・刑法の出題傾向を徹底的に分析することにより、その対策（攻略法）を示すことを目的とする。

2 憲法

(1) 出題傾向

① 典型論点を題材とする推論問題

- (a) H29-2-ウ（予算の法的性格）
- (b) H29-3-エ・オ（憲法と条約との関係）
- (c) H25-2（党籍の変動と議員資格の喪失）
- (d) H24-2（立法権と行政権の関係）
- (e) H24-3（条例と罰則）
- (f) H23-1（海外渡航の自由）
- (g) H23-2（内閣の法律案提出権）
- (h) H22-1（法の下の平等）
- (i) H21-1（外国人の人権）
- (j) H21-3（最高裁判所規則と法律との関係）
- (k) H20-1（生存権の法的性格）
- (l) H20-3（予算の法的性格）
- (m) H19-1（人権の私人間効力）
- (n) H19-3（法令違憲判決の効力）
- (o) H18-1（衆議院の解散）
- (p) H17-2（最高裁判所又は下級裁判所の条約審査権）
- (q) H17-3（内閣の法律案提出権）
- (r) H16-2（国会の両議院が定める議院規則と国会法との関係）
- (s) H16-3（公共の福祉による基本的人権の制約）
- (t) H15-2（人権の私人間効力）

② 判例を題材とする問題

判例を題材とする問題は、以下の3類型に分類することができる。

a 結論の前提事項

- (a) H27-3-⑥ (法律の範囲内といえるかどうかの判断基準)
- (b) H26-1-ア (税関検査事件：検閲の意義)
- (c) H25-1-ア (八幡製鉄事件：個人と法人の政治資金の寄付との差異)
- (d) H24-1-ア (森林法共有林事件：財産権の保障の意義)
- (e) H22-2-ア (津地鎮祭事件：政教分離の意義)
- (f) H22-2-ウ (津地鎮祭事件：「宗教的活動」の意義)
- (g) H22-2-エ (箕面忠魂碑事件：「宗教上の組織もしくは団体」の意義)

b 合憲性判断基準

- (a) H29-1 (公衆浴場法距離制限事件, 酒類販売免許制事件)
- (b) H28-1-イ (外務省秘密電文漏洩事件)
- (c) H28-1-エ (日本テレビ事件)
- (d) H28-1-オ (NHK記者証言拒絶事件)
- (e) H25-1-ウ (猿払事件)
- (f) H25-1-オ (未決拘禁者の喫煙禁止)
- (g) H24-1-イ (森林法共有林事件)
- (h) H23-1-オ (帆足計事件)

c 結 論

上記以外の問題・設問

③ 空欄語句挿入問題

- (a) H29-1 (職業選択の自由に対する規制の合憲性判断の手法)
- (b) H27-3 (地方自治の本旨)
- (c) H24-2 (立法権と行政権の関係)
- (d) H22-1 (法の下での平等)
- (e) H22-3 (地方自治)
- (f) H21-2 (外国人の人権)
- (g) H19-1 (人権の私人間効力)

④ 未出分野からの出題

- (a) H29-1 (職業選択の自由に対する規制の合憲性判断の手法)
- (b) H28-1 (取材の自由)
- (c) H28-2 (主権の概念)
- (d) H26-1 (検閲)
- (e) H24-1 (財産権)
- (f) H23-1 (海外渡航の自由)
- (g) H22-3 (地方自治)

⑤ 頻出論点

司法権

(2) 対 策

- ① 典型論点を題材とする推論問題

- ② 論点の網羅的習得 (未出分野の先回り)

③ 重要判例の理解及び暗記

【法令違憲判決アプローチ】

- (a) 尊属殺重罰規定違憲判決（最大判昭 48. 4. 4）
- (b) 薬事法距離制限規定違憲判決（最大判昭 50. 4. 30）
- (c) 衆議院定数配分規定違憲判決（最大判昭 51. 4. 14）
- (d) 同上（最大判昭 60. 7. 17）
- (e) 森林法共有林分割制限規定違憲判決（最大判昭 62. 4. 22）
- (f) 郵便法免責規定違憲判決（最大判平 14. 9. 11）
- (g) 在外国民選挙権制限違憲判決（最大判平 17. 9. 14） ※
- (h) 国籍法規定違憲判決（最大判平 20. 6. 4）
- (i) 非嫡出相続分規定違憲決定（最大決平 25. 9. 4）
- (j) 再婚禁止期間規定違憲判決（最大判平 27. 12. 16）

※ H21-2-イ

国外に居住して国内の市町村の区域内に住所を有していない日本国民である在外国民についても、憲法によって選挙権が保障されており、国は、選挙の公正の確保に留意しつつ、その選挙権の行使を現実的に可能にするために、所要の措置を執るべき責務を負うが、選挙の公正を確保しつつそのような措置を執ることが事実上不能又は著しく困難であると認められる場合には、在外国民が選挙権を行使することができないこととなっても違憲とはいえない。

○（最大判平 17. 9. 14）

【公権力敗訴判決アプローチ】

- (a) 南九州税理士会事件（最判平 8. 3. 19）
- (b) 堀越事件（最判平 24. 12. 7）
- (c) 日産自動車事件（最判昭 56. 3. 24）
- (d) 前科照会事件（最判昭 56. 4. 14）
- (e) 早稲田大学江沢民講演会事件（最判平 15. 9. 12）
- (f) エホバの証人輸血拒否事件（最判平 12. 2. 29）
- (g) 神戸高専剣道実技拒否事件（最判平 8. 3. 8）
- (h) 愛媛玉串料事件（最大判平 9. 4. 2） 等

3 刑法

(1) 出題傾向

① 判例を題材とする問題

近年は、「判例の趣旨」に照らして正誤の判断をする問題しか出題されていない。

② 頻出論点

a 総論

- (a) 正当防衛【H29-25, H25-25, H21-25, H18-27, H13-24】
- (b) 共同正犯【H26-24, H22-24, H19-25, H12-23, H11-23】
- (c) 実行の着手【H24-24, H20-25, H12-26】
- (d) 中止未遂【H27-25, H21-24, H13-23】
- (e) 故意【H27-24, H23-24】

b 各論

- (a) 窃盗罪【H28-25, H23-26, H20-26, H19-26, H16-27, H12-26】
- (b) 詐欺罪【H26-26, H21-26, H18-26, H14-24】
- (c) 強盗罪【H27-26, H22-25, H13-25】
- (d) 文書偽造罪【H25-26, H17-26, H11-26】

③ 長期間論点の出題

長期間論点とは、「おおむね10年以上出題されていない論点」をいう。

- (a) 故意【H23-24】 *H27-24
- (b) 住居侵入罪等【H23-25】 *H29-24
- (c) 放火罪【H24-26】
- (d) 因果関係【H25-24】
- (e) 文書偽造罪【H25-26】 *H17-26
- (f) 罪数【H26-25】 *H14-26
- (g) 間接正犯【H28-24】
- (h) 国家的法益【H28-26】

(2) 対 策

- ① 重要判例の理解及び暗記
- ② 財産罪の精度
- ③ 過去問論点の網羅

4 パーフェクト講座 憲法・刑法

全10回で憲法と刑法の対策を万全なものとする。

教材は、択一式対策講座【理論編】憲法・刑法とほぼ同様である。

以 上